

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和2年6月19日（金）10時00分～11時15分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

澁谷企画調査官、知見主任安全審査官、高松専門職、伊藤係長、市森係員、
高木技術参与

福島第一原子力規制事務所

松本原子力運転検査官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当5名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、以下の説明があった。

- 2号機原子炉格納容器（PCV）の減圧機能確認の実施について

- ✓ 2021年に予定している2号機の燃料デブリ試験的取り出し・PCV内部調査に向け、既設ガス管理設備がPCV外へのダスト移行を抑制するのに十分な減圧能力を有することを確認する作業を本年7月上旬に実施することを検討している。既設ガス管理設備の排気量を増加させることでPCV圧力を大気との均圧まで減圧することを目標とする。
- ✓ 本作業はプラントの状態変化を伴うものであり、安全を最優先に実施する。作業期間中は窒素封入量、排気流量、PCV圧力等のパラメータの監視を強化する。運転上の制限に関わる監視項目として水素濃度があるが、減圧による影響は限定的と考えている。本作業は運転上の制限の範囲内で実施するため、計画的な運転上の制限外への移行（青旗作業）には該当しない。

- 3号機サプレッションチェンバ（S/C）内包水のサンプリングについて

- ✓ 3号機S/Cの耐震性向上策として、段階的にPCV水位を低下させることを計画している。PCV取水設備の設計・工事や適切な水処理計画の策定に資するため、S/C内包水の水質を把握することが必要であり、本年7月中旬から8月末にかけてS/C内包水のサンプリングを行う。
- ✓ S/C底部に接続する既設配管から分岐する計装配管に、ポンプ・タンク等の仮設の取水装置を接続して取水する。取水した水は、一部サンプリングして建屋滞留水と同項目の水質分析（全 α 、全 β 、 γ 核種（Cs-134、137）、塩素、Ca、Mg、トリチウム）を行うとともに、排水タンク（約2m³のものを2基設ける）へ移送・貯留し、滞留水移送・処理に問題が無い放射能濃度であることを確認の上、トーラス室へ排水する。
- ✓ S/C内包水を採水するには既設配管内の水（約7m³～14m³と推定）を先行して取水する必要があるため、合計取水量と濃度の双方を考慮してS/C内包水を採水したと判断するまで取水／分析／排水を繰り返す。
- ✓ 取水装置の搬入・組立て・撤去は人が入って作業するが、被ばく低減のため、あらかじめ機器はユニット化しておき作業時間を短縮する。また、取水／排水の操作や取水した水の線量の監視は遠隔で実施する。

- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、各作業終了後に結果を報告することを求めた。

6. その他

資料：

- 2号機原子炉格納容器(PCV)の減圧機能確認の実施について
- 3号機サプレッションチェンバ(S/C)内包水のサンプリングについて
- 1F-1 オペフロダストモニタのBG計数率の測定記録
- 循環注水冷却スケジュール
- 使用済燃料プール対策スケジュール
- 燃料デブリ取り出し準備スケジュール
- 汚染水対策スケジュール
- 水処理設備の運転状況, 運転計画(2020年6月12日~2020年6月25日)
- 福島第一原子力発電所の滞留水の水位について(2020年6月12日~2020年6月18日)